

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

平成 26 年 3 月 19 日	
所属部局・職	霊長類研究所・人類進化モデル研究センター
氏名	藤森唯

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
熊本県
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
飼育技術向上のための研修
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 3 月 9 日 ~ 平成 26 年 3 月 12 日 (4 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
熊本サルクチュアリ、鶴殿俊史獣医師/熊本市動物園、福原真治氏/阿蘇カドリー・ドミニオン、宮沢厚氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の研修ではチンパンジーの飼育技術向上のため、上記の3施設を訪問させていただき、施設や飼育技術について情報交流をさせていただいた。熊本サルクチュアリでは10日に施設見学、ボノボ観察、対面トレーニング見学を、11日午前には飼育研修をさせていただいた。施設見学では、以前は整備途中であった第2飼育棟の見学が印象的であった(写真1)。第2飼育棟の運動場内部には階段や広い足場があり、また外部にも広い足場が隣接されており、施設点検や作業が安全かつ効率的にできそうだと感じた。また、これまでであった放飼場にも新たに足場が取り付けられており、第2飼育棟同様、作業効率が良さそうで作業の幅も広がると思った。その他、日当たりや風通し、施設全体の観察のしやすさなども考慮されており、参考にしたい点が多くあった。ボノボ観察では体格や行動、社会性などにおけるボノボとチンパンジーとの差を実際に見ることができ、非常に興味深かった(写真2)。ハズバンドリートレーニングやコミュニケーションの取り方の見学でも、多くのことを勉強させていただいた。以前訪れた際に教えていただき、本研究所でも取り入れている心電図検査についても機材や検査の様子を実際に見せていただくことができた(写真3)。現在の手法の問題点と改善方法を知ることができ、今後の検査技術の安定に活かしていきたいと思った。コミュニケーションの取り方については、各個体の性格や反応に合わせた対応の仕方や動き方を1つ1つ見させていただくことができた。また、チンパンジーの飼育全体についてこれまで疑問に感じていたことを幅広く相談することもでき、全体を通して非常に勉強になった。
11日の午後には熊本市動物園を、12日午前には阿蘇カドリー・ドミニオンを訪問させていただいた。どちらとも施設見学と飼育方法の説明をしていただいた。興味深いフィーダー

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

がいくつもあったので、本研究所でも取り入れて、チンパンジーの生活をより豊かなものにしていきたいと思った（写真4）。



写真1. 熊本サンクチュアリ第2飼育棟



写真2. 認知実験に取り組むボノボ

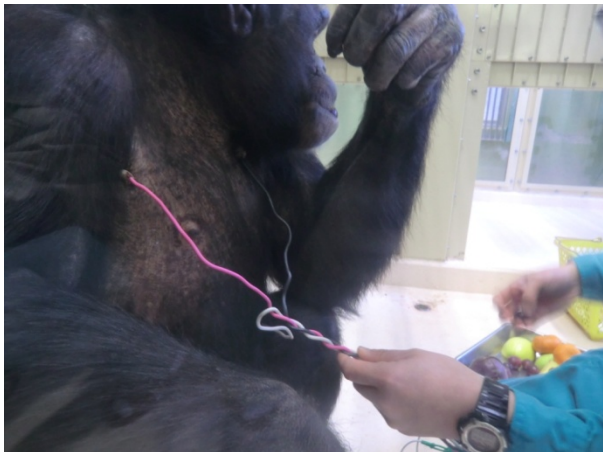


写真3. 対面にて心電図検査をおこなう様子



写真4. 熊本市動物園の滑車式フィーダー

6. その他（特記事項など）